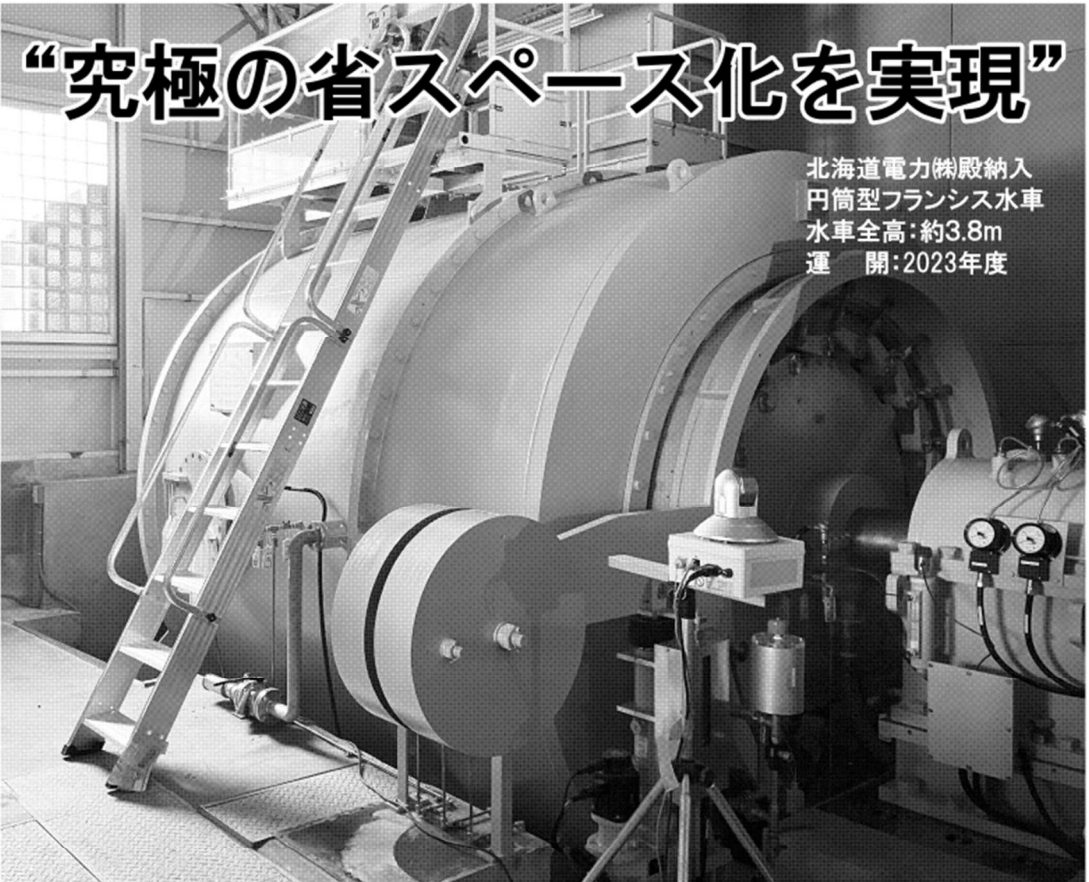


“究極の省スペース化を実現”

北海道電力㈱殿納入
円筒型フランシス水車
水車全高：約3.8m
運 開：2023年度

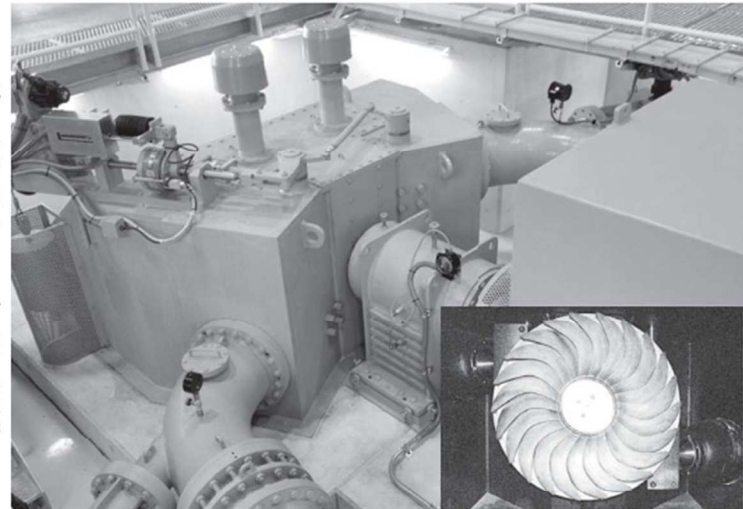


田中水力株式会社 TANAKA HYDROPOWER CO.,LTD.
 神奈川県厚木市上古沢御子ヶ谷255番4
 TEL:046-281-9801 FAX:046-248-9802
 URL:http://www.tanakahydro.jp/

田中水力

維持管理の救世主「ターゴ水車」、高稼働率を実現

田中水力（神奈川県厚木市、梅村 和）年に発電用水車の製造・改造・
 賢二社長）のルーツは1932（昭和7）年に発電用水車の製造・改造・
 修理の専門会社として創設した田中



アルプス発電に納入したターゴ水車・発電機
 （1033キロワット、有効落差101.67メートル）

水力機械製作所であり、既設水車の修理を中心に手掛けていたが、2005年に「田中水力株式会社」として水力部門を分離独立させた。現在では小水力発電プラントの機器選定から設計・製造・組み立て・据え付け工事・性能評価・メンテナンスまで一貫して請け負い、北海道から沖縄、海外に至るまで納入実績を200地点を超える総合メーカーへと発展した。

同社が90余年の中で培ってきた技術的な強みは、究極の省スペース化を実現した「円筒型フランシス水車」、国内メーカーで唯一製造可能な「ターゴ水車」など、いかんなく発揮されている。中でもターゴ水車はその適用範囲がベルトン水車とフランシス水車の中間領域で、ベルトンと比べ回転数が高く、コストを抑えられるメリットを持つ。またフランシスと比べ、流量が変化した際に水車効率に作用しにくく、土砂摩擦があっても水流に乱れが起きず出力への影響も少ないのが特長だ。

維持管理の面でも、ごみ詰まりに関する問題が他水車に比べ少なく、高い稼働率を実現できることに加え、大きな点検口があることによりメンテナンスが非常に容易なことも強みだ。11年に富山県魚津市にある小早月発電所に1千キロワットの国産第1号機を納入、これまでに21台の実績があり、現在も電力会社向けに2千キロワット級を製作中だ。

再生可能エネルギーにおける小水力発電の比率を高めるためには、課題である事業者負担を軽減する必要があり、稼働率が高く、保守性に優れた水車が注目されている。同社はラインアップの豊富さと対応出力の広さを生かし、国内外に向けて製品およびサービスを提供するとともに、さらなる高効率水車の開発に取り組む姿勢だ。今後も小水力発電事業に貢献し、よりクリーンな世界を目指していくとしている。